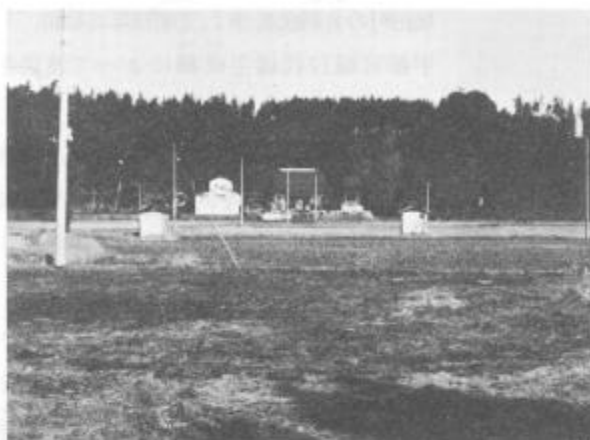


31 正月餅と宝泉寺

伝承地：宇都宮市板戸町

参考書籍：1



(宝泉寺とその周辺)

鬼怒川の東、清原地区の板戸町に宝泉寺という天台宗の名利がある。この宝泉寺には、次のような話が伝承している。

江戸時代の初めのころの事でした。寺の近所の農家で正月餅をついていると、かまどの火が燃え広がり、数戸の農家が焼失しました。このような事が数回起こったので、部落の人々が相談した結果、お寺で共同で餅つきをすることにしました。

ところが同様にお寺も火災になってしまいました。人々は協力してお寺を再建し、再び餅つきを行ったところ、再度寺は焼失しました。その後、この部落では餅つきを止め、12月10日川びたり餅と一緒に正月餅をつくようになりました。この習慣は終戦後まで続きました。

現在では正月餅は、12月下旬につくようになりました。

ところが同様にお寺も火災になってし

